

## 屋外を模擬した空間が心理・生理及び知的生産性に与える影響

The Effects of a Biophilic Meeting Space on Physiological Response and Meeting Efficiency

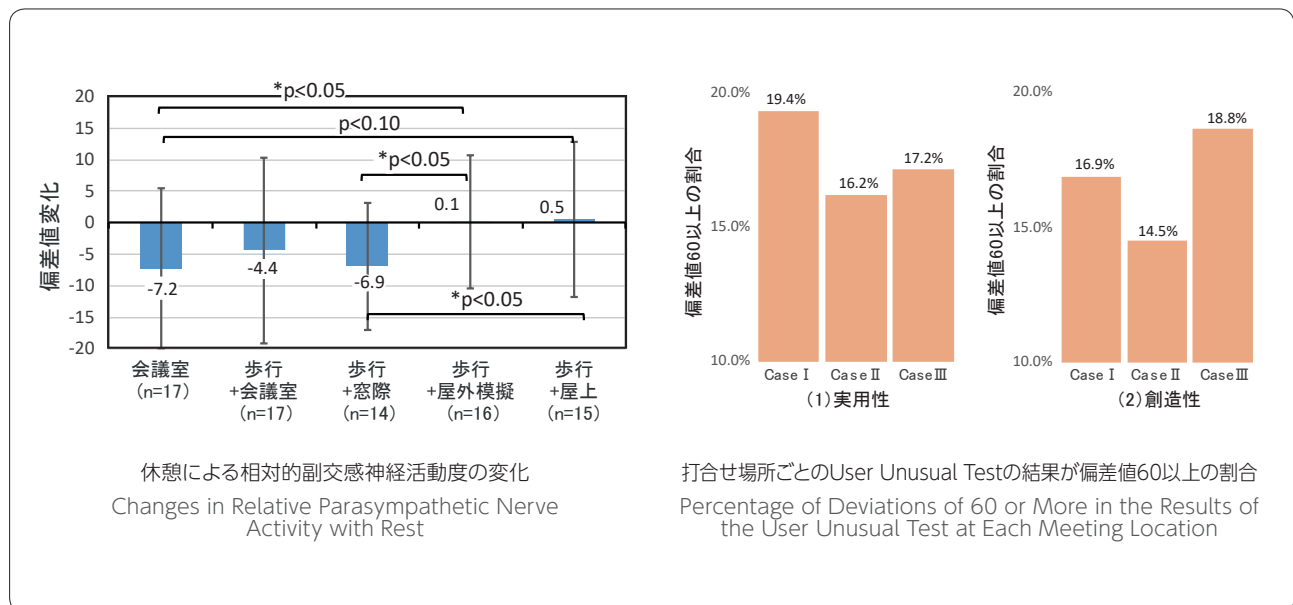
権藤 尚 坂田 克彦 矢入 幹記 高砂 裕之 金子 弘幸 関 紅美花<sup>1)</sup> 伊香賀 俊治<sup>2)</sup> 稲葉 岳<sup>2)</sup>  
 Takashi Gondo, Katsuhiko Sakata, Motoki Yairi, Hiroyuki Takasuna, Hiroyuki Kaneko,  
 Kumika Seki<sup>1)</sup>, Toshiharu Ikaga<sup>2)</sup> and Gaku Inaba<sup>2)</sup>

### 研究の背景と目的

近年、建築空間としてウェルネスに配慮した空間のニーズが高まっている。オフィス空間等においてもワーカーの健康性・快適性に配慮しながら知的生産性を向上する観点での取り組みが活発である。本研究では、オフィス空間において屋外を模擬した空間を提案し、そこで過ごす人の心理量、生理量、創造作業、個人作業、グループの協働活動等に空間が与える影響について被験者実験を行い、その効果を定量的に評価する。

### 研究の成果と活用

オフィス空間において屋外を模擬した空間を休憩する場所として用いた場合、一般的な空間に比べて、主観的ストレスの減少、生理面における副交感神経活動の回復、休憩後の知的作業における有意な成績の向上が認められた。また、打合せ場所として用いた場合、一般的な会議室に比べて打合せの際、主観的にはリラックス感が高く、空間満足度が高かった。生理的には空間に移動してきた時は交感神経活動が低く、作業する際には高くなった。また、知的生産性に関しては、協働作業時に創造性に関する成績が良くなる結果が得られた。今後、得られた知見を元に、健康性・快適性に配慮しながら知的生産性を向上する空間の提案・実現につなげていく。



### 研究方法

オフィス空間において屋外を模擬した空間を構築し、実験Ⅰとして休憩に関する実験を5ケース（会議室、歩行+会議室、歩行+窓際、歩行+屋外を模擬した空間、歩行+屋上空間）行った。実験Ⅱとして打合せに関する実験を3ケース（会議室、開放的な会議空間、開放的で屋外を模擬した会議空間）行った。各空間で過ごす人について心理量に関してはアンケートを行った。生理量については自律神経活動等を測定した。知的生産性を測定するため、マインドマップによる創造作業等を行った。また、グループの協働活動として模擬的な打合せ（User Unusual Test）を行った。空間が与える影響に関する被験者実験を実施し、定量的な検証を行った。

1) 建築設計本部 Architectural Design Division  
 2) 慶應義塾大学 Keio University